

株式会社 白崎コーポレーション
2020年1月期 アニュアルレポート



目次

社長挨拶	_____	3 ページ
財務ハイライト	_____	4 ページ
事業概況	_____	6 ページ
組織図	_____	8 ページ
企業活動（CSR）	_____	8 ページ
会社概要	_____	13 ページ
沿革	_____	14 ページ



経営理念 『自然と人間^{みんな}がいっしょに幸せになる仕事』

社会・経済構造が劇的な変化を遂げ、確たる指標なき時代、企業は自身の哲学を掲げることに
よって自らの道を切り拓かねばなりません。哲学のない企業に未来を創造することはできない。

—— 私どもが自ら質すなかで出した答えは

「自然と人間（みんな）がいっしょに幸せになる仕事」というキーワードです。

ここにはく地球環境・お客様・ビジネスパートナー・社員とその家族・株主＞という5つのステークホルダーとの共存共栄が謳われています。この5つのステークホルダーとの共存による「幸せの輪」の創造こそ、私どもが目指す企業像です。

たとえば、どんなに企業の利潤が上がっても、その事業が地球の環境破壊を引き起こしていたり、社会倫理に反していたりしたら、その企業は優良と呼べるでしょうか。そこに働く社員や家族は幸福と言えるでしょうか。ひとりひとりの社員が、自分の仕事がお客様に喜んでいただける、社会に貢献していることを実感できてはじめて自らの仕事に誇りと責任感を持つことができます。そして、その責任感にはビジネスパートナーとの相互信頼を育み、共に成長しお互いの事業の成功と発展にもつなげられるのです。さらに事業の成功は利潤を生み、株主の皆様にもご満足いただくことができると考えます。

白崎コーポレーションはこの「幸せの輪」の実現に向けて、ここに掲げた経営理念をすべての企業活動の礎とするべく胸に刻み込み、社会から尊敬される企業となれるよう、そしてトップを含め社員みんなが夢を語り合える企業となれるよう、今後も自らを厳しく律しながら挑戦を続けてまいります。



経営方針

- 一、 私たちはいつも環境に心を配り、地球の繁栄につくしていきます。
- 一、 私たちは顧客満足度の向上に努め、お客様の信用をたかめていきます。
- 一、 私たちはビジネスパートナーと共に歩み、確かな信頼関係を築いていきます。
- 一、 私たちは日々の仕事を通して自己を高め、豊かな未来をつくっていきます。
- 一、 私たちは適正な利潤を追求し、株主のみなさまの期待に応えていきます。



ミッション・ビジョン

ミッション 私たちは事業を通じて社会に貢献できる人を育てます。

ビジョン 全社員が自分の会社に誇りを持てるような最高の中小企業になります。



社長挨拶

「2019年度（65期）を振り返って」

代表取締役社長 白崎 弘隆

2020年1月に中国で突然出現した新型コロナウイルス感染症が、この原稿を書いている5月現在でも全世界で猛威を振るっています。世界中で、そして日本国内でも多くの尊い命が失われ、感染された方も高熱や激しい咳や頭痛で非常に辛い思いをされていると聞いています。今回の感染被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

また、このような状況の中、病院で戦っている医療関係者の皆様には心から敬意を表するとともに感謝の意を表します。ありがとうございます。

弊社でも、2月初旬に中国の仕入先が政府から休業指示を受けたり、現地の社員が自宅から外出できなかつたりした影響で仕入先の工場が操業できない状況となりました。そのために商品の納入がストップするのではないかと心配していましたが、2月末には中国の企業も稼働するようになりお客様に欠品することなく商品をお届けすることができました。それどころか日本国内でのマスク不足を心配した中国の企業からマスクを大量に送って頂き、社員が安心して仕事ができるようになるとともに地元の医療機関にマスクを3,000枚寄付することもできました。素晴らしいビジネスパートナーに感謝しています。

さて、65期の弊社の状況は社員の頑張りにより全社として増収増益となりました。サプライビジネス事業においては昨年引き続き厳しい業界事情の中で売上・売上総利益・経常利益のいずれも昨年対比ではマイナスになりましたが、マーケットの状況に合わせて人員を縮小して経費を抑え新規開拓に注力した結果、一人当たりの売上・売上総利益・経常利益のすべてを昨年対比で増やすことができました。また、グリーンアップ事業においては公共部門への売上が全体をけん引して大きく伸ばすことができた一方で、新規市場開拓で成果を出すためにはもうしばらく時間がかかりそうな状況です。

新型コロナウイルス感染症の影響の中でも若い社員が成長してきたこともあり、4月までは順調にきていました。しかしながら、3月頃から続いている外出自粛で本来の営業活動が難しい状況が続いており、今後大きな影響が出てくることを危惧しています。1日も早いコロナ騒動の収束を心から願っています。


 財務ハイライト

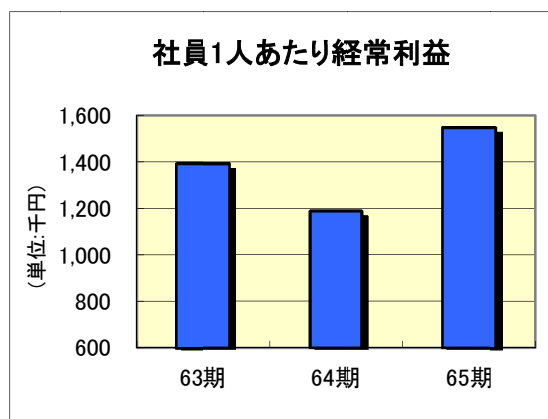
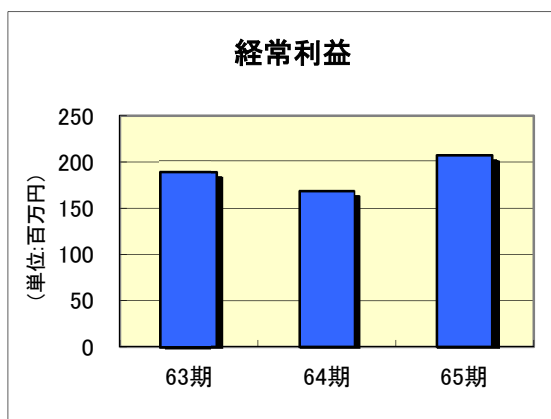
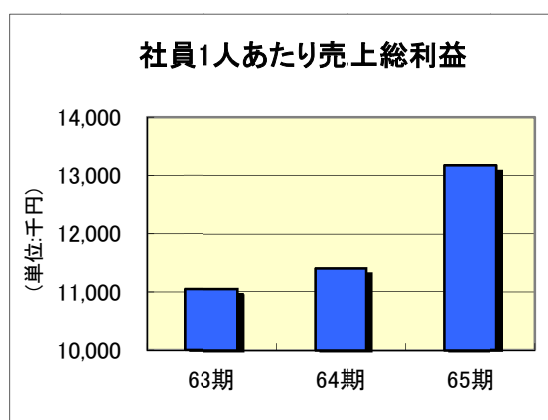
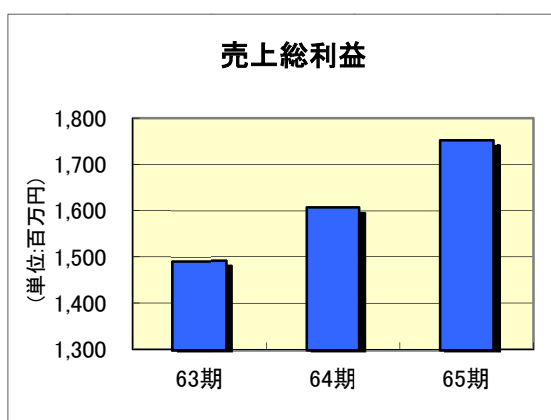
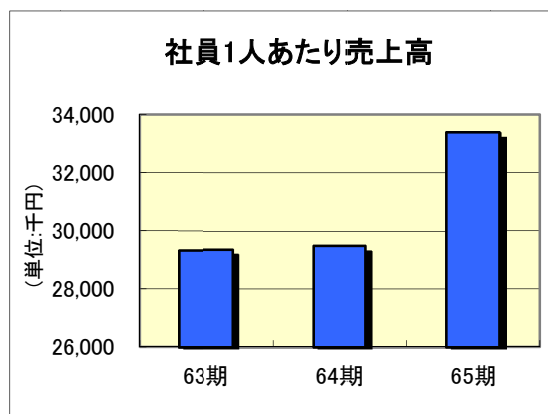
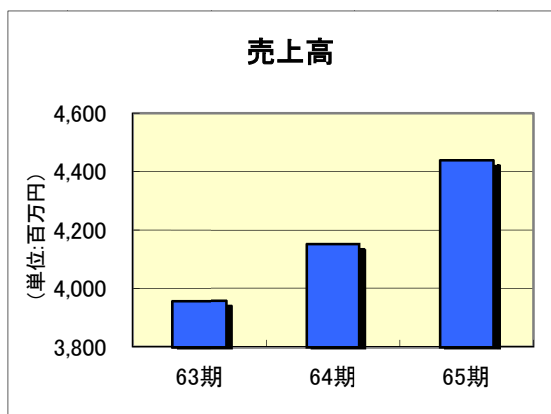
	単位	63期 2018/1	64期 2019/1	65期 2020/1
売上高	千円	3,959,322	4,152,724	4,438,229
売上総利益	千円	1,491,153	1,606,970	1,751,072
売上総利益率	%	37.7%	38.7%	39.5%
経常利益	千円	187,723	167,767	205,570
経常利益率	%	4.7%	4.0%	4.6%
総資産	千円	2,660,315	2,697,249	2,917,252
自己資本	千円	1,183,684	1,249,877	1,340,671
自己資本比率	%	44.5%	46.3%	46.0%
総資産経常利益率	%	7.1%	6.2%	7.0%

2018年1月期（63期）から2020年1月期（65期）までの当社の決算の数値を掲載しています。

65期の売上高については、再生トナーカートリッジや事務用消耗品の販売を行うサプライビジネス事業では、17億9,566万円と前期比2.4%の減収となりました。また、防草シートや緑化資材の販売を行うグリーンナップ事業では、公共事業が好調で26億380万円と前期比14.4%の増収となりました。これらに太陽光発電事業の売電収入を含め、全体でも44億3,823万円と前期比6.9%の増収となりました。

利益面ではグリーンナップ事業の大幅な売上増により売上総利益は9.0%増加となり、それに加えてサプライビジネス事業の経費削減により経常利益は2億557万円と前期比22.5%の増益の決算となりました。

今期は59期に作成した中長期計画（7年計画）の最終年です。事業全体で7年計画の最終を締めくくり、次の新たな白崎を築く大事な一年にしたいと考えています。





事業概況

■グリーンナップ事業

常務取締役 中川 豪

グリーンナップ事業の昨年度を振り返ると、売上は対前年比120%となりました。一昨年は重要な公共市場の販売鈍化で苦戦しましたが、昨年は一転しその公共市場の販売好調によりこのような一定の評価ができる結果となりました。特に国土交通省における道路の雑草対策で防草シートの需要が増え、その要因としては長年実績のあるチガヤシートの品質や、弊社がビジネスパートナー様と協業で行うサービス（現場調査から提案、販売、施工まで）が評価されたものと認識しています。引き続き弊社の活動ポリシーである、①現場の調査診断から入り提案すること、②商品品質だけでなく現場品質の向上を目指すこと、③販売後の現場モニタリングを通してお客様に安心を提供すること、これらを通して「雑草問題解決のプロ集団」を目指します。

近年は道路のみならず鉄道、太陽光発電所、通信などインフラ関連での雑草対策の考え方が変化しているように感じます。今までは草刈り作業とのコスト比較が重要視されてツール（商品）が選ばれる傾向にありましたが、最近では働き方改革に関連した従業員や作業者の安全対策として、または環境への配慮の向上目的でツールが検討されるようになりました。つまりお客様のニーズが変わり、そのニーズも多様化しているという状況です。到底一つのツール、その一辺倒ではお客様に満足してもらえる提案は出来ないの、弊社でもそのニーズに応えられるよう新商品・サービス開発の重要性が高まっていると感じています。昨年は一般社団法人日本能率協会の主催で「第一回草刈り除草ワールド」が東京ビックサイトで開催され、草刈り除草という特定の分野で弊社をはじめ数多くの企業やツールが出展されていました。これだけ多くの企業、商品、技術があるにも関わらず、未だに雑草が要因となる問題が解決するどころか、より深刻に複雑に大きくなっている現状があります。その原因は、どの企業も単独に「もの」の性能・機能に焦点を当て開発を進めた結果、本来考えられるべきお客様のニーズや対象となる雑草の生理生態について無知のまま、場当たりの導入を行ってきた結果といえます。弊社は開発を強化するとともにこれらの雑草対策に取り組んでいる同業者との協力や連携が、お客様の変化するニーズや多様化するニーズに応えるヒントだと考えています。そして業界全体が同じ目的に向かうようなリーダーシップにも挑戦していきたいと考えています。また今回の草刈り除草ワールドでは、弊社が支援しているNPO緑地雑草科学研究所が特別協力として参画し、セミナー等も行いました。引き続きNPOの活動支援を行い、専門知識の習得や発信、発掘に努めていきたいと考えています。

今期は59期に作成した中長期計画（7年計画）の最終年度です。まだまだ弊社が目指している姿には届きませんが、近年は社員が着実に成長していることを実感しています。社員の成長で仕事の内容・質が変わり、仕事の内容・質が変われば自ずと結果も変わっていきます。事業全体で7年計画の最終を締めくくり、次の新たな白崎を築く大事な一年にしたいと考えています。

■ サプライビジネス事業

取締役 相澤 英昭

昨年度のサプライビジネス事業の状況を振り返ると、収益の柱としているリユーストナーカートリッジの市場環境に大きな変化はなく依然として厳しい事業環境が続いています。当事業でも同業者との差別化を図り頑張ってきましたが、結果としては若干の減収減益となりました。サプライビジネス事業全体として2019年度は若干の減益となった一方で、社員一人当たりの利益という指標で見ると若干の増益とすることが出来ました。

プリンタ用消耗品を取り巻く環境は、ペーパーレス化やプリンタ出荷台数の減少などの影響により市場として停滞が続いています。また、原材料や運送費など収益を圧迫する要因も増えてきているのが現状です。このような市場環境の中で当事業としては同業者との差別化を図ることが最重要課題であるという認識から、ここ数年は他社との差別化に注力することを続けています。

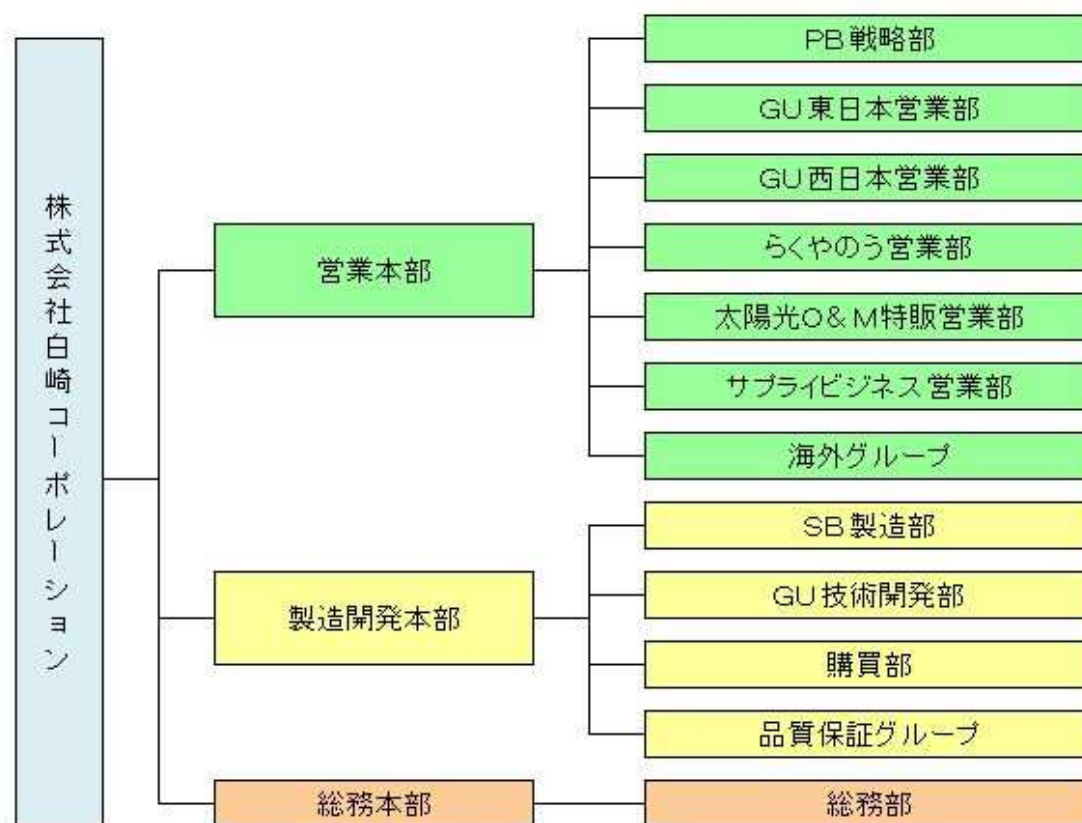
サプライビジネス事業のミッション（使命）は「私たちは再生トナーを中心に、お客様の利益に貢献できる製品・サービスを提供します」としています。ここで言う「お客様の利益」とは、一般的には利益と言うと儲けや利潤をイメージしますが、弊社では役に立つ、ためになるという意味合いを含めています。言うなればお客様にお役立ち出来るような製品やサービスを提供して行きたいという思いを表しています。

また、サプライビジネス事業のビジョンは「私たちは製品・サービスの差別化を追求し、お客様に選ばれるものづくり企業を目指します」としています。お客様のお役に立つためにはまずは弊社製品を選んでいただく必要があります。選んでいただくには他社とは異なるメリット（差別化）が必要という考えを表しています。しかしながら、差別化というのは正直なところ簡単に出来るとは考えていません。お客様の声に耳を傾け、その声を社内で製品・サービスに地道に落とし込んでいくことが何より重要だと認識していますので、今後も様々なご意見を頂ければ幸いです。

2020年度は新型コロナウイルスの影響もあり、より一層厳しい年となりそうですが、今後もお客様の利益（役に立つ、ためになる）につながる製品・サービスの提供を心がけた事業活動に努めてまいりますので引き続きご指導、ご支援よろしく願いいたします。



組織図




CSR（企業活動）

先進国では社会が豊かになるに従い経済成長以外のさまざまな価値観が生まれ、企業評価の指標として、法律や制度で定められた範囲を超えて「よりよい行動」をすることを望ましいとする傾向が生まれています。弊社では経営理念および経営方針として企業活動をめぐる5つのステークホルダー（地球環境・お客様・ビジネスパートナー・社員とその家族・株主）との共存共栄を、また、ミッションとして社会に貢献できる人財育成を掲げてCSR活動体制の整備と強化を行っています。企業に求められる社会的責任の内容は時代とともに変化していきます。積極的な働きかけにより地域社会の抱えている問題を十分認識したうえで事業を通じて蓄積したノウハウや能力を社会に還元し、問題解決に貢献していくことが、地域社会からの信頼につながるものと考えています。

【1】法令及び企業倫理の遵守

■企業倫理

2001年に企業倫理の徹底を図るため、以下の5項目からなる「倫理二十五箇条」を制定しました。

1. 職場環境
2. 5S活動
3. 環境
4. 営業・業務活動
5. 会社資産の保護

これを社員全員が「経営理念」「経営方針」といっしょに毎日の朝礼で唱和をすることにより、理解の徹底から実行を図っています。

■お客様情報及び個人情報の管理

社内の情報管理については、以下の5つのセキュリティールールを定めて情報管理研修を実施するとともに全社員から誓約書を徴収し、情報漏洩の未然防止を図っています。

1. パソコンの利用に関するセキュリティールール
2. 外部媒体の利用に関するセキュリティールール
3. メール利用に関するセキュリティールール
4. インターネット利用に関するセキュリティールール
5. 白崎ネット（社内グループウェアシステム）へのアクセスに関するセキュリティールール

また、特に個人情報の取扱いについては、その取得から利用・開示・利用停止・消去に至る詳細な運用ルールを定め、個人情報の保護に努めています。

【2】社会性報告

1. 社員とともに

弊社の使命は「事業を通じて社会に貢献できる人を育てる」ことであり、そのためには「社員は財産（人財）」と考えています。社員が安心して働ける環境を整え、自ら考え、学び、行動できるような様々な制度や仕組みを作り、社会に貢献できる人づくりを推進しています。

■新卒採用 ～若いフレッシュな感覚に期待～

2007年から新卒採用活動を積極的に推進しています。若手社員をリクルーターに選抜し、彼らを中心に会社説明会や面接等を運営しています。2018年4月に8名、2019年4月に2名、2020年4月に3名の有望な人財を採用することができました。

■社員教育

社員の能力開発と挑戦する組織風土の形成を目指して、2005年度に教育体系をOJT・集合研修・自己啓発の三本柱として再編成を行い、2006年度から本格的な社員教育を実施しています。社員教育の基本は職場における指導・育成であるOJTにあります。OJTでは補い切れない能力開発の場として階層別やテーマ別の社内研修を推進しています。2019年度は、グループリーダー職を対象としたマネジメント能力開発研修を、外部講師を招いて実施しました。

また、通信教育受講や社外研修等参加の費用補助も実施しており、社員の積極的な自己啓発の取り組みを支援しています。

■ビジネスキャリア検定試験と公的資格 ～専門能力と管理能力～

自己啓発の動機付けと取得能力を評価・測定するツールとして「ビジネスキャリア検定試験」の受験を推奨しており、春と秋に実施される試験には毎年多くの社員が受験しています。合格者は社内の掲示板に掲載し昇格試験にも活用しています。例えば、部長職であれば職務分野2級1科目以上および共通分野(労務管理、経営戦略など)3級1科目以上の合格が必須となっており、専門能力と管理能力の両面の自己啓発が要求されます。また業務に関連した公的資格への挑戦も奨励しており、難易度に応じてビジネスキャリア検定合格と同等の評価をしています。

■目標管理制度 ～目標は自分で考え、決めて、実行～

弊社の目標管理制度は、社員一人ひとりがそれぞれの部署の目標をもとに上司との話し合いを通じて自分の仕事の目標を立てて計画的に取り組み、上期・下期の年2回達成度合を評価する制度です。個人の目標は上司から与えられるものではなく、まず自らが考えて上司との個人面談を通して十分に話し合っ決めてことになっており、社員の自発的な行動を促す仕組みとなっています。

■褒める社風の定着 ～社員表彰制度～

会社や社会に貢献した社員を全員で褒め称えるために、以下の4つの表彰制度を制定し、広く社内に公開しています。

1. 永年勤続表彰
2. 白崎MVP
3. 改善提案優秀賞
4. 5S大賞

特に白崎MVPは2001年から続いており、社員相互により推薦された中から選抜されます。それらはすべてが公開され、ボランティア活動や他部門との連携・協力など、自分の業務以外の功績による推薦も多数見受けられます。

2. 地域社会とともに

企業も社会の一員であると考え、積極的な社会貢献活動に取り組むことにより社員の社会貢献意識を高めています。さまざまな活動を通じて地域の方々との交流を図り、地域社会と共に成長していきたいと考えています。

■NPO法人への支援

NPO法人「緑地雑草科学研究所」は、人々の生活圏の緑地環境を創り向上させることを目的として設立されました。そのNPO法人を支援することにより適切な雑草の制御技術や利用技術の確立と普及活動に貢献しています。

■納涼祭

近隣住民の方々を本社に招待しての納涼祭は毎年恒例の行事として定着しています。弊社のOBの方々も多数参加され、社員と一緒に焼きそばや焼き鳥、イベントなどを楽しむ交流の場として非常に好評をいただいています。2012年からは若手社員が中心となって企画から実施までの運営を行い、若手社員と他部署の社員とのコミュニケーションを深める良い機会にもなっています。

【3】 環境保護活動の実績

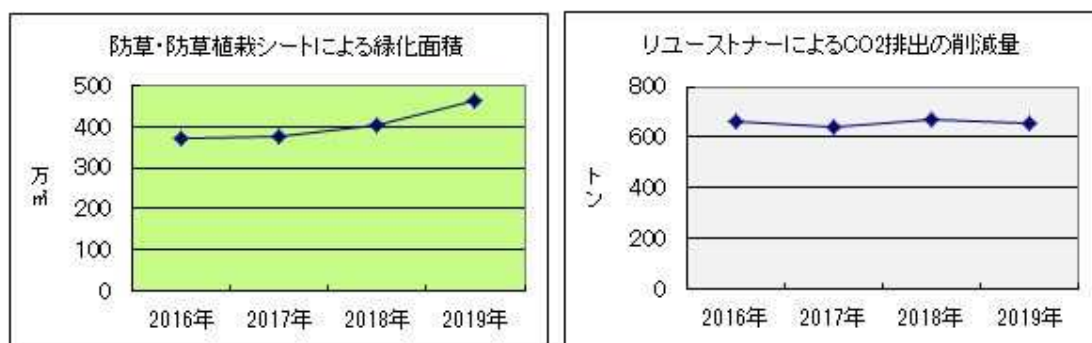
弊社では限られた資源を有効に活用し、出来る限り環境に負担をかけない企業活動に全事業所で取り組んでいます。

■防草緑化事業による環境保護

雑草を抑える防草シートや雑草を抑えながら目的の植物を育てる防草植栽シートを施工することにより、公園や道路の法面、太陽光発電施設等の雑草問題を解決して、貴重な緑地資産の価値を高めることが出来ます。また低コストでの管理が可能になるため、維持にかかるエネルギーを削減しながら社会の景観美化を推進することが出来ます。2019年度は464万㎡の緑化を行いました。

■トナーカートリッジリユース事業による環境保護

トナーカートリッジ本体を再利用するリユーストナーカートリッジは、限りある資源を有効に活用する循環型社会において重要な役割を担っています。リユーストナーカートリッジを使用することにより、本体のプラスチックの原料である原油を1本あたり2.6リットル削減できるという効果があります。また、リユーストナーカートリッジは本体のプラスチックの製造や廃棄処理におけるCO₂の排出量の削減にもつながるため、1本あたり3.4キロのCO₂が削減できるという効果もあります。2019年度は652トンのCO₂排出量削減につながりました。



■ 廃棄物のリサイクル

工場の生産工程で投入される材料や資材のロスを低減する、あるいはコピー用紙の再利用を行うなど、社内の省資源化に努めています。また発生したトナーカートリッジ等の廃棄物はプラスチックの原料や金属資源として、梱包材等に使用されていたプラスチックの廃棄物は梱包用ラップの原料としてリサイクルすることにより、資源の有効活用を行うと同時に最終処分量の削減に努めています。

■ 太陽光発電の導入

太陽光発電のメリットはクリーンな自然エネルギーであり、地球温暖化の原因となるCO₂の削減に大きく貢献できます。弊社が所有している太陽光発電所には鯖江太陽光発電所（福井県鯖江市）、三国太陽光発電所（福井県坂井市）、鹿児島太陽光発電所（鹿児島県鹿屋市）の3箇所があり、2019年度は約107万キロワットの発電を行いました。これは、当社の全事業所で使用している1年間の電力量の約2倍にもなります。

また、これらの太陽光発電所にはグリーンナップ事業で販売している「太陽光発電用防草シート」が使われており、太陽光発電の障害となる雑草の繁茂を長期間抑えることで、効率の良い発電を維持することが出来るようになっていきます。


 会社概要

会社名 : 株式会社白崎コーポレーション 設立 : 1955年7月2日 資本金 : 9,800万円 代表者 : 代表取締役社長 白崎弘隆 従業員数 : 143名(男87名、女56名) 事業内容 : 防草シート、防草植栽シート、その他緑化資材の開発・製造・販売 リユーストナーカートリッジの設計・製造・販売 トナーカートリッジ、インクリボン、その他事務用消耗品(OAサプライ品)の購入販売	
本社・福井工場	〒916-0076 福井県鯖江市石生谷町11-23 TEL: 0778-62-2200 (代表) FAX: 0778-62-3336 (代表)
東京支店	〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-6-3 小西ビル TEL: 03-6892-4400 (グリーンナップ事業直通) TEL: 03-3667-9881 (サプライビジネス事業直通) FAX: 03-3667-9880 (共通)
西日本営業所	〒660-0881 兵庫県尼崎市昭和通3-90-1 尼崎K.Rビルディング TEL: 06-6430-1713 (グリーンナップ事業直通) TEL: 06-6430-1711 (サプライビジネス事業直通) FAX: 06-6430-1715 (共通)
九州営業所	〒812-0042 福岡県福岡市博多区豊2-3-80 グランシャリオ豊 TEL: 092-473-1452 (グリーンナップ事業直通) TEL: 092-473-1430 (サプライビジネス事業直通) FAX: 092-473-1436 (共通)
福井物流センター	〒915-0801 福井県越前市家久町27-1-1 TEL: 0778-42-8353 (注文業務窓口) FAX: 0778-42-8515 (注文業務窓口) TEL: 0778-21-8500 (倉庫業務窓口) FAX: 0778-21-8502 (倉庫業務窓口)



沿革

1949年	個人創業
1955年	白崎テープ工業株式会社設立
1994年	白崎テープ株式会社と株式会社羽田が合併 株式会社白崎コーポレーションに称号変更、鯖江市石生谷町に本社設立
1996年	防草緑化事業への参入、トナーカートリッジ再生事業への参入
1997年	西日本営業所開設
1999年	九州営業所開設
2001年	ISO14001全事業所認証取得
2004年	ISO9001全事業所認証取得
2005年	ホールディングカンパニー制に移行
2011年	事業会社を統合
2012年	済南古菱納普商貿有限公司設立